

## 陸揚げ用ケーブル管路建設工法

海底ケーブル陸上工事時の陸上部管路建設工事のコスト削減を目的として1996年(平成8)より開発が開始された。同年10月に低コストで工期が短いという特徴がある水平ドリリング工法用装置を導入し、粘性土、砂質土、その他陸揚げ工事で遭遇することが想定される種々の条件を対象に4回の掘削試験を実施し、管路の多条引きなど陸揚げに必要な工事技術の獲得とノウハウの蓄積に努めた。この間に始まった JIH 建設工事では陸揚局が海岸から比較的遠く、海岸と陸揚局の間に砂防林があるなど非開削工事を必要とするものが少なくなかった。新設陸揚局11局のうち、局舎から海岸部までの海底ケーブル管路建設工事にHDD工法が必要あるいは有利であると判断されたものは5局に達した。97年10月より98年3月にわたり、9スパン、延べ敷設距離1,045mに及ぶ管路建設工事を実施し、建設コストと工期の削減に寄与した。

出典：KDD 社史